

## なぜ「おくすり手帳」が必要なのか？

患者さんには、このようなご経験をされた方もおられるのではないのでしょうか。

医師「現在、どんなお薬をのんでおられますか？」

患者さん「えーっと、血圧のお薬と、コレステロールの薬と、あと粉薬と・・・、何だったかな？」

医師「お薬の種類によっては今回処方しようと考えている薬と影響し合う場合があります。血圧の薬などはいろいろな種類のものがあるので名前がわかると大変助かるのですが・・・。」

患者さん「これはどうですか？(処方された薬を取り出す)」

医師「この薬は何だったかな？薬に書いてある番号を調べてみますね。あと、こちらの粉薬はわかりませんね。」

実は、薬そのものをみてもすぐには薬品名が分からないことがあります。また、粉薬は袋に名前が書いてなければ、その内容はまったくわかりません。

おくすり手帳には薬の正確な名前が書かれているだけでなく、一日量や処方日数、処方された日付や医師の名前などたくさんの情報が書かれています。処方された薬に関するこれらの情報を一つ一つ覚えておくことは大変ですが、おくすり手帳を見るだけで簡単にわかります。思いがけない薬が病気を考える上で重要な手がかりになることもあり、おくすり手帳は医療者にとっても貴重な情報源です。お持ちの方は受診の際に是非ご持参ください。

お薬手帳は調剤薬局で、無料でもらうことのできる手帳です。薬局で薬をもらう際に提出すると、処方された薬が一覧になったラベルを貼ってもらえます。いろいろな薬局を使っている場合でも一つの手帳を毎回提出することが大切です。

(文責：高橋 徳幸)